

講義名	ファッション心理学			授業形態	
担当教員	森上 幸夫	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

ファッションという概念は様々な生活レベルのモノやコトをあらわしている。個人の装いや趣味にはじまり文化的な暮らしや社会的行為にいたるまで「ファッション」と捉えられ、その多くが研究の対象となっている。研究の結果、人々の生活に根ざしたファッション(モノやコト)は、欲求、自尊心、他者比較といった心理的機制と大いに関連している。本講義では、ファッションを流行現象、被服行動、化粧行動などの観点からとらえ、それに関する私たちの心理的機制的な説明を試みる。

到達目標

ファッション心理学における、流行現象、被服行動、化粧行動の3つの領域の研究業績における調査結果あるいは実験結果から人々の心理的機制的な説明を試みる。そして、それぞれの領域の問題について多様な視点から把握を試み、その解決について社会的な観点から合理性と客観性をもって説明できるようになる。

提出課題

授業期間の中期と末期において授業内容の理解度を確認する課題がある。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

理解度を確認する課題の提出後に自己採点が可能なように正解もしくは模範解答を公表する。

評価の基準

授業回における中期の課題への回答が50%、末期の課題への回答が50%である。

履修にあたっての注意・助言他

懸念するにあたり必ずノートをとること、講義内容については常に疑問をもち、興味・関心のある事例は講義外においても考え続け、関連する文献・情報を読み、理解を深めようとする態度が大切であると考えます。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.なし。					
------	--	--	--	--	--

その他

必要に応じて紹介する。

授業計画

01. ファッション心理学への導入1 「ファッション心理学とは何か」
02. ファッション心理学への導入2 「ファッション心理学の課題」
03. 流行現象1 「流行の定義と特徴」
04. 流行現象2 「流行の過程と個人的特性」
05. 流行現象3 「流行の対象と事例」
06. 被服行動1 「被服研究の歴史」
07. 被服行動2 「被服の傾向と個人的特性」
08. 前半のまとめ 「流行現象と被服行動(上)の理解の確認」
09. 被服行動3 「被服と自己要因」
10. 被服行動4 「被服と社会的影響」
11. 化粧行動1 「顔の機能と意味」
12. 化粧行動2 「化粧の種類と特徴」
13. 化粧行動3 「化粧の個人的影響」
14. 化粧行動4 「化粧の社会的影響」
15. 後半のまとめ 「被服行動(下)と化粧行動の理解の確認」

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

「1回目と2回目の授業後に各2時間の復習」、「3-5回目の授業前に関連する資料や文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「6回目と7回目の授業前に関連する資料を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「8回目の授業前にそれまでの授業内容の要約作業4時間、および課題内容についての2時間の復習」、「9回目と10回目の授業前に関連する資料を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「11-14回目の授業前に関連する資料を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「15回目の授業前にそれまでの授業内容の要約作業4時間」を要する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

ファッションと人間の心理との関係を解釈し理解することから、広く、深い教養を身につけて総合的な判断力や応用力を養う。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

なし。